

新実施計画事業（施策評価）の見方

事業番号 101 生涯を通じた一人ひとりの健康づくりの推進

重点政策	2	主管部	世田谷保健所	関連部	総合支所、保健福祉政策部、高齢福祉部、障害福祉部
------	---	-----	--------	-----	--------------------------

基本計画に掲げる6つの重点政策を構成する事業の場合は、該当する重点政策の番号を記載

(1) 事業目的

全世代を通じた区民の健康づくりの取組みを推進し、区民の健康長寿を目指します。

基本計画における施策等を達成するため、当事業が目指す姿を記載

(2) 4年間の取組み方針

- ①・区民一人ひとりが「何かひとつ、健康に良いこと」を生活の中に加えられるよう、「健康せたがやプラス1」を合言葉にして、運動・食育等を通じた生活習慣病予防の推進を図ります。
- ②・
- ③・課題を解決するための4年間の取組み方針や具体的な取組み内容を記載

(3) ロジックモデル

インプット フルコスト(千円)	アウトプット (行動量) (方針)	アウトカム (成果指標) (方針)	インパクト (事業目的)
11,449	講座・イベント等における「健康せたがやプラス1」の働きかけ	① 1. 講座・イベント等の参加者における「健康せたがやプラス1」の認知度の向上	全世代を通じた区民の健康づくりの取組みを推進し、区民の健康長寿を目指す。
37,023	こころの相談機能の強化	② 2. メンタルに関する悩みなどについて、相談できる窓口を知っている人の割合 3. メンタルに関する悩みなどを誰にも相談しない人	
13,755	自殺対策計画策定と計画に		

「事業目的」、「成果指標」、「行動量」、「フルコスト」を体系化し、事業目的の達成に至るまでの道筋を記載
※フルコストは「(7) 財務分析 3) 行動量の単位あたりコスト」記載の行動量ごとの金額を掲載している。

(4) 事業の成果

方針	成果指標	策定時 平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度) 目標	令和3年度(2021年度) 目標に対する達成状況※
①	1. 講座・イベント等の参加者における「健康せたがやプラス1」の認知度の向上	22.1%	13.3%	26.6%		80%	7.8% △
②	2. メンタルに関する悩みなどについて、相談できる窓口を知っている人の割合	28.2%	38.6%	39.6%		40%	96.6% ○

施策の成果を測る成果指標及び令和3年度目標に対する達成状況を記載

※○：令和元年度末時点での目標を達成
△：目標達成に至らなかった

新実施計画（後期）の4年間で積み上げたい目標値に対して、当該年度時点でどこまで達成できたかを記載
原則、以下の計算式で算出
(当該年度の実績－策定時の値) / (4年後の目標値－策定時の値)
※小数点以下第2位を四捨五入
ただし、±1,000%以上のものについては「－%」で表示している。

新実施計画事業（施策評価）の見方

(5) 実現に向けた取組み（行動量）の実績

方針	項目	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)	総量	
①	講座・イベント等における「健康せたがやプラス1」の働きかけ	当初計画	8,500 人	8,500 人	8,500 人	8,500 人	34,000 人
		修正計画	—	—	—	—	—
		実績	9,339 人	9,670 人			19,009 人
②	こころの相談機能の強化	当初計画	検討	実施に向けた準備	試行	検証・試行	—
		修正計画	—	総量は、積み上げ可能な行動量の合計を記載 行動量が定性的な場合は「—」とする			—
		実績	検討				—
	当初計画	意識調査の実施	策定	実施	健康せたがやプランへの包含	—	
	面に基づく取組み	修正計画	—	—	—	基本方針に基づく施策の健康せたがやプランへの反映、関連分野との連携の拡充	—
「(2) 4 年間の取組み方針」に対応する番号を記載							
4 年間の取組み方針に基づく年次別計画（年度経過後は実績） 取組みの進捗状況等に応じ、計画を見直し、修正計画として記載							

(6) 区民・事業者との参加と協働により進める取組みの実績と今後の課題

○「健康せたがやプラス1」の働きかけをする健康づくり講座・イベントの実施

区主催の各種講座やイベント等での体験を伴った普及啓発や、官民連携の観点で民間企業の顧客ネットワーク（第一生命㈱、東京海上日動火災保険㈱）を活用した幅広い区民周知に取り組んだ。今後は、「新しい生活様式」に伴い、対面形式による啓発の機会が減少するため、既存事業の中での創意工夫や官民連携の活用等により啓発を進めていく。また、あんしんすこやかセンター等とも連携を図り、高齢者の低栄養予防の普及啓発などの取組みを効果的に進める。

施策の推進において、区民・事業者との参加と協働により進める取組みの実績と今後の課題を記載

(7) 財務分析

1) 新実施計画事業を構成する予算事業

予算事業名	所管課名
5010 精神保健福祉推進	健康推進課

新実施計画事業を構成する予算事業（政策経費）と所管課を掲載

※当該事業単独での決算額（政策経費）がない新実施計画事業については、その旨を注記している。
 ※新実施計画事業を構成する予算事業（政策経費）のうち、複数の施策に係る経費がある事業については、主となる事業への掲載と合わせて、従となる事業にも【再掲】と注記している。

新実施計画事業（施策評価）の見方

①行政コスト計算書

(千円)

勘定科目	平成 30 年度 (2018 年度)	令和元年度 (2019 年度)	令和 2 年度 (2020 年度)	令和 3 年度 (2021 年度)
通常収支の部 収支差額(a=b+e)	△ 56,121	△ 73,537		
行政収支の部 収支差額(b=c-d)	△ 56,121	△ 73,537		
行政収入(c)	10,652	17,840	100%	100%
国庫支出金	2,240	9,299	21%	52.1%
都支出金	8,255	7,142	77.5%	40%
使用料及び 利用料	—	—		
その他	157	1,399	1.5%	7.8%
行政費用(d)	66,773	91,377	100%	100%
人件費	36,334	56,906	54.4%	62.3%
物件費	17,697	20,953	26.5%	22.9%
委託料	12,571	15,448	18.8%	16.9%
維持補修費	—	—		
扶助費	—	—		
補助費等	9,342	9,314	14%	10.2%
投資的経費	—	—		
減価償却費	—	—		

「新実施計画事業を構成する予算事業（政策経費）」と、「各行動量に係る経常経費の予算事業」の経費等を合算した行政コスト計算書を掲載
また、右の列に収入、費用それぞれの構成比を掲載

新実施計画事業を構成する予算事業（政策経費）の事務分担割合により算出した人員を職層別の表で掲載

※「再掲の予算事業」がある場合、または「各行動量に係る経常経費の予算事業」がある場合は、職層別の表形式ではなく以下の様に合計人数のみを掲載している。

②令和元年度（2019年度）の施策に関わる人員 7.98人

評価年度実績における行動量の単位あたりコストを掲載

※コスト分析にあたり「(5) 実現に向けた取組み（行動量）の実績」記載の実績単位より適当な単位がある場合、別途単位あたりコストを算出し追加で掲載している。

3) 行動量の単位あたりコスト

(千円)

方針	取組み項目	令和元年度 (2019年度) 実績(a)	単位	人員 (人)	フルコスト (b=e+f)	フルコスト内訳				単位あたりコスト (b/a)	前年度 単位あたりコスト
						直接コスト(e=d-c)		間接コスト (f)	単位あたりコスト (b/a)		
						収入(c)	費用(d)				
①	講座・イベント等における「健康せたがやプラス1」の働きかけ	9,670	人	1.11	11,449	1,439	10,148	7,609	2,740	1	1

行動量ごとのコスト分析結果を掲載

※フルコストの算出にあたって昨年度十分に捕捉できなかった間接コスト（庁舎管理や庶務等の内部管理・調整に係る経費及び管理事務人件費等に係る経費）の精度を高めた。「前年度単位あたりコスト」についても、改めて算出した。

新実施計画事業（施策評価）の見方

方針	取組み項目	令和元年度(2019年度)実績(a)	単位	人員(人)	フルコスト(b=e+f)	フルコスト内訳			単位あたりコスト(b/a)	前年度単位あたりコスト	
						直接コスト(e=d-c)		間接コスト(f)			
						収入(c)	費用(d)				
				内人件費							
その他(予算事業別)	精神保健福祉推進			0.44	3,563	32	2,694	2,293	902	—	—
	がん対策	新実施計画事業を構成する予算事業（政策経費）のうち、行動量に係らない分のコストを掲載								—	
	政策経費小計			6.87	81,533	16,401	81,229	49,297	16,705	—	—
総合計				7.98	92,982	17,840	91,377	56,906	19,445	—	—

(8) 成果の達成状況に対する評価等

1) 令和元年度成果の達成状況に対する評価

○各成果指標の達成状況

講座・イベント等の参加者における「健康せたがやプラス1」の認知度の向上〔成果指標1〕については、平成30年度から13.3ポイント上昇したものの、令和元年度成果の達成状況として不十分であった。

○達成状況の主な要因

取組みが有効だった点	達成状況の要因を以下の6つの視点で分析し、特筆すべき要因について具体的内容を記載 <要因の視点> ・取組みが有効だった点 ・取組みの有効性が低かった点 ・行動量がニーズに対し十分であった点 ・行動量がニーズに対し不十分だった点 ・新たな取組みが必要と考えられる点 ・外部要因等の影響により成果が低下した点
自殺対策基本方針の策定を通じて共有し整理でき、啓発機会の指標2、3]	
取組みの有効性が低かった点	
がんポータルサイト開設に向診の受診率とがん相談件数への	
行動量がニーズに対し不十分だった点	
区民への健康づくりの働きか要因として、官民連携の取組み	
新たな取組みが必要と考えられる点	
メンタルに関する悩みを抱えたこころの健康づくりのしくみ	

○コスト面に関する評価

こころの相談機能の強化の一環として、新規に多職種チームによる訪問支援事業を開始し、精神保健相談員3人など主に人件費が増額となったが、総合支所保健福祉センター保健師と連携し精神疾患がある未治療・治療中断の区民等に対する支援を行うための適切なコストである。

2) 課題及び今後の進め方

新型コロナウイルス感染症の影響等によるこころの不調や疾患をもつ区民の増加に対応するために、ストレスケアや相談の方法等について区民に周知していく。さらに、多職種チームによる訪問支援事業や、夜間・休日等こころの電話相談等のこころの相談体制の整備など、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築事業」を展開する。

がん対策推進の成果指標である各検診の受診率とがん相談件数の目標を達成するため、がんポータルサイトを区のHPに令和2年度内に開設し、がん相談コーナーについては、関係機関との連携

上記の評価を踏まえ、施策の目標達成に向けた課題及び今後の進め方を記載